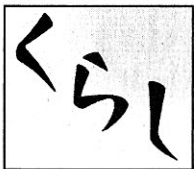


来年の医療制度改革に向けて十月、厚生労働省が試案を発表、高齢者の患者負担増などが論議を呼んでいる。二年ごとに見直される診療報酬改定も来年度に控える中、第二十回全国医療法人経営セミナーが二十六日、岡山市駅元町の岡山コンベンションセンターで開かれる。患者にとって医療制度、そして病院はどうかあるべきか。日本医療法人協会とともにセミナーを主催する同協会岡山県支部の佐能重雄支部長（光生病院理事長）に聞いた。



# 削減の財政論 先行は問題

## あす岡山で全国経営セミナー



医療制度改革の問題点を説明する  
佐能支部長

佐能・日本法人協岡山県支部長に聞く

### 生活習慣病予防 適正化計画に意義

「厚生省の試案をどう思  
うか。現行制度のままでは  
二〇二五年度、現在の約二  
倍の五十六兆円に膨れ上が  
る見通しの医療給付費を、  
四十九兆円に抑制するとし  
ている。」  
「高齢者が病院などに支  
払う窓口の負担増、長期入  
院中の居住費や食費の自己  
負担化など、患者や医療機  
関にとって大きな問題を含  
んでいる。医療費削減の財  
政論が先行しているが、国  
内総生産（GDP）比の医  
療費では、日本は先進国で  
最低レベル。高齢化や医療  
技術が進展する中で医療費  
が伸びたが、高度で安定し  
た医療サービスを提供して  
きた側面がある。それを米  
国方式の資本主義の論理  
で、削減を進めることには  
疑問が残る。現に米国では、  
高い保険料を払えない無保  
険者が続出している。」  
「患者が自己負担増に伴  
って受診を手控える、重大な  
病気が見過ごされること  
が、微熱の患者が白血病  
であるケースもある。安心  
して質の高い医療を受けら  
れる体制は守らなければな  
らない。」  
「医療をめぐる諸問題を  
考え、これからの病院の在  
り方を探るのが狙いで、毎  
年開催している。今回は厚  
労省の担当課長が医療法人  
制度改革、診療報酬改定に  
ついて講演するほか、先進

「世界に誇る長寿大国と  
それを支えた国民皆保険、  
生活習慣病患者の減少、入  
院日数の短縮などの数値目  
標を盛り込んだ『医療費適  
正化計画』（五年間）を新  
ていきたい。」  
「都道府県が糖尿病など  
生活習慣病患者の減少、入  
院日数の短縮などの数値目  
標を盛り込んだ『医療費適  
正化計画』（五年間）を新  
ていきたい。」  
「患者にとっては、どん  
な点が憂慮されるか。」

## 来年の医療制度改革